

●取材・文・柳原三佳 ●イラスト・吉岡昌哉



柳原三佳

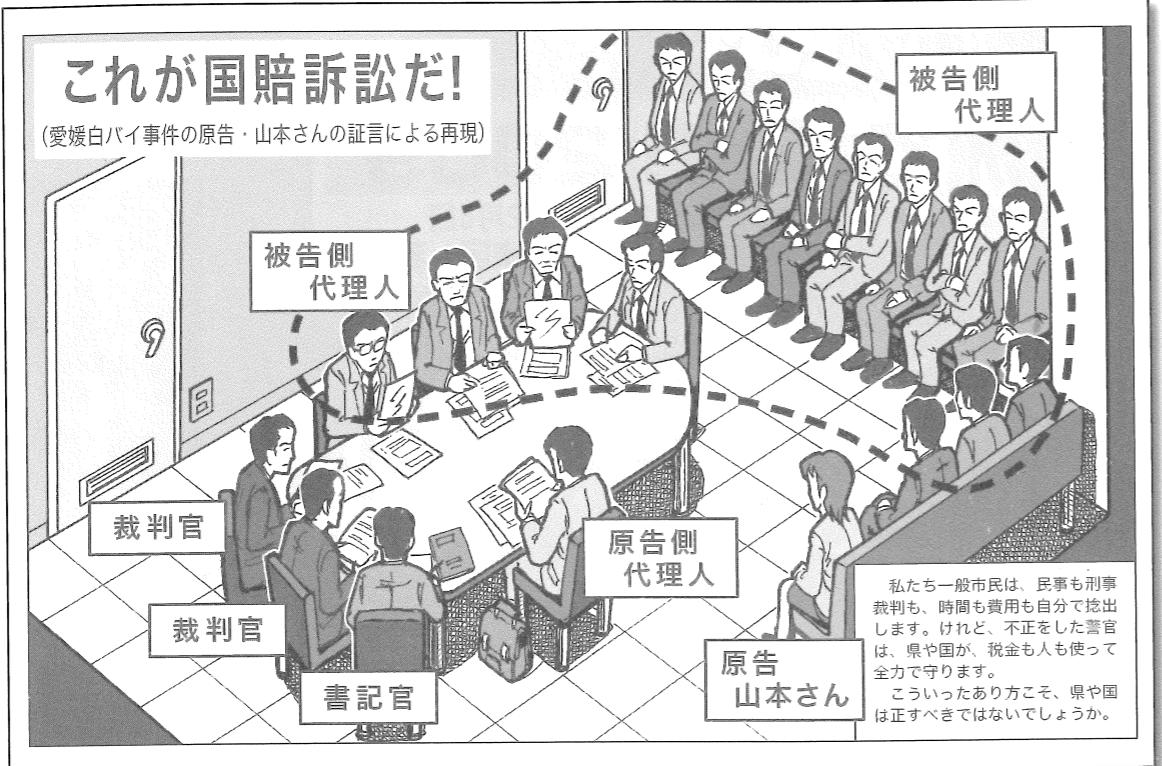
やなぎはらみか
バイク雑誌の編集記者を経てフリーに。
交通事故を主なテーマに執筆する他、
TV出演、講演活動も行う。本誌や「週刊朝日」に連載した交通事故の告発ルボは、自賠責制度の大改正につながり話題を呼んだ。また検視や司法解剖に
関する取材も精力的に行い、日本の死因究明のひずみを鋭く指摘している。最新刊『自動車保険の落とし穴』『焼かれる前に語れ』『交通事故被害者は二度泣かされる』など著書多数。
自らも限定解除のナバンライダーである。



「警察や検察を相手に、過酷な裁判を続けています」 —愛媛白バイ事件

→ 2004年11月8日に発生した愛媛白バイ事件。少年と隊員双方が重傷を負った。

8
7
6
5
土佐署署員
土佐署員
科搜研技官
白バイ隊員
提訴の日
片岡さんの支援者によ
るブログ、「高知白バイ事件＝片岡晴彦収監中」には、次のようなメッセージが綴られています。
（今日は白バイ隊員の命日です。3



年前の今日から片岡さんとご家族、そして、Y隊員とそのご家族の不幸が始まりました。今は涙雨かもしれません。この事件に亡くなられた方の身辺を騒がすことは申し訳なく思いますが、今でも深く関わった者として、亡くなれた隊員に哀悼の意を表します。

2004年11月8日、愛媛白バイ事件の原告・山本さんは、裁判所で開かれた公判で、被告側の代理人（高知県警）から「白バイ」（=警察官）に対する損害賠償請求権を認められました。しかし、高知県警は、この敗訴を不服として上級裁判所へ控訴しました。その後、高知県警は、2005年3月に控訴棄却され、敗訴確定となりました。

●山本事件は、「愛媛の白バイ事故…母です」 http://blogs.yahoo.co.jp/toshika_zu2355/199002.html でこれまでの経緯が紹介されている。また、柳原三佳のHP <http://www.mika-y.com/> では、特集番組を動画で配信中だ。

●高知白バイ事件は、支援者によるブログ「高知白バイ事件＝片岡晴彦収監中」 <http://littlemonkey737.blog90.fc2.com/> に詳しい経緯が綴られている

ことが、今後に欠かせないことだと経験上信じています。片岡さんもY隊員も加害者、被害者という関係ではなく、双方共に県警保身の被害者であるという思いは、すいぶん以前よりありました。不幸な事故を保身のために、事實を隠蔽しようとした高知県警の愚かな行為により、事故の当事者同士がいがみ合い、恨み、恨まれていくのを側に見てきました。

違法な捜査で無実の罪に問われ、事実を訴えても理不尽な司法はその声を聞こうともしないで1年4ヶ月の実刑判決を下した。それに対する怒りと苦しみを想像できる人は多いと思います。

また、突然小さな子供を残したまま、夫や息子を亡くした悲しみの中に、『事故の相手は馬鹿げた理由で事故の責任は無い。こちらが悪いと言っている』と伝えたら……。悲しみは怒りと憎しみに変わっていくことがあります。

その様子を裁判や情報収集中で見てきました。

いつたい この状況は誰のせいなのか？ それを考

えると腹が立ちますね。眠れないくらいの。その怒りが燃料となつて片岡さんや「支援する会」と共に走つてきましたが、なんとか「第三幕」の立ち上げにいたることができました。

これもまた、これまでの皆様の有形無形のご支援のおかげです。この先長い戦いになりますが、今後も

片岡晴彦の支援をよろしくお願ひします。）

愛媛白バイ事件も、高知白バイ事件も、問題の根幹はまったく同じです。スクーターの山本少年も、スクールバスを運転していた片岡さんも、対し証拠ねつ造などざんざな捜査を行つたとして、1000万円の損害賠償を求める裁判を起こしたのです。この訴訟における被告は、次の8名です。

「事故から3年、ついに高知県警を提訴しました」 —高知白バイ事件



2006年3月3日に発生した、高知白バイ事件。白バイ隊員は即死だった。

3月20日、愛媛の山本さんから私のもとに封書が送られてきました。中に入っていたのは、原告の山本さんと、被告（愛媛県ほか）が出した「第7回準備書面」でした。被告側の準備書面の表紙には、今も大勢の代理人の名前がズラリ（数えてみたところ、なんと12人）。一方、山本さん側には、代理人の名前が一人だけ……。

私はこれまで、同様の裁判をたくさん取材してきましたが、国や県を相手にした国家賠償訴訟では、いつも例外なく、こんな感じなのです。ちなみに、左ページのイラストは、3月18日に松山地方裁判所のラウンドテーブル法廷で行われた裁判の模様を、被害者の母である山本純子さんのスケッチをもとに再現したのですが、これを見ると、いかに被告側のメンバーが多いかがよくわかりますよね。

山本さんはこう憤ります。

「第6回目からなぜか裁判は非公開となり、ラウンドテーブル法廷という小さな部屋で裁判が行われるようになりました。部屋の中はいつも

んな感じで、私と弁護士のほかは、毎回、ざらつと相手側の代理人が並ぶのです。たとえ裁判を起こされても、警察は国から守られ、税金を投入して闘つきます。ここにもまた、大きな不公平が生まれていると 思います」

たしかに、山本さんの息子さんにしても、今回の民事裁判も、もちろん自分たち一般市民は、民事も刑事裁判も、時間も費用も自分で捻出します。けれど、不正をした警察官は、県や国が、税金も人も使って全力で守ります。

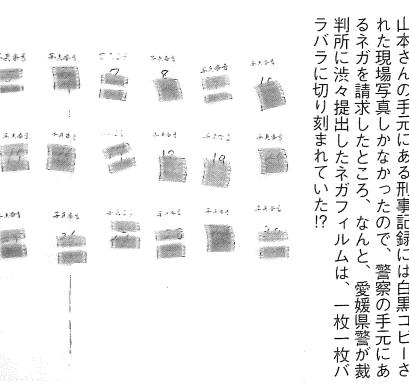
「白バイ」（=警察官）だった、といいうだけです。もし、相手が白バイ警察官ではなかたら、ここまで大変な思いをするとはなかたかもしません。

山本さんはこう続けます。

「私たち一般市民は、何をするのも自力です。刑事裁判での弁護士費用も、今回の民事裁判も、もちろん自分で自分の過失を被害者にナシにしてみれば、交通事故の相手が偶然だけなのに、その負担はどれだけ大きなかなことでしょうか。不正をした警察官は全力で県や国が守ってくれるのに？」おかしきります！ 本来、県や国は、不正をした警察官を全力で「正す」べきではないでしょうか。警察、検察、裁判所は変わらなくてはならないと思います」

「一体いつまで続くのでしょうか。何より悔しいのは、事故の真実をつぶやむやにしたまま、あと半年で刑事事件としての時効を迎えてしまうこと。うちの息子は、当初、『加害者』と扱いされ、一度は保護観察処分まで言い渡されたのです。白バイが嘘をついて自分の過失を被害者にナシつけようとしたのであれば、刑事的にそれなりの罰を受けるべきではあります。しかし、毎回、裁判の準備書面を読むたびに心臓はバクバク、心が折れそうになります。なぜ警察は、事故態様をあそこまで創作するのでしょうか。どこまで真実を捻じ曲げ、組織を守ろうとするのでしょうか。でも、その反面、『負けるものか』と力が湧いてきます」

しばらくは裁判が非公開のため、傍聴支援することはできませんが、進展があつたら、引き続きこの連載の中でお伝えしたいと思います。



高知白バイ事件・片岡夫妻もついに県警を提訴！

以下は、山本さんが2007年11月1日に起訴を起こしてから、現在にいたまでの裁判経緯です。

山本さんの手元にある刑事記録には白黒コピーされる手を請求しながら、そこで、愛媛県警が裁判所に提出したネガフィルムは、一枚一枚バラに切り刻まれていた！

| | |
|---------|-------------|
| 1回目 | 2007年12月19日 |
| 2回目 | 2008年3月12日 |
| 3回目 | 4月30日 |
| 4回目 | 5月9日 |
| 5回目 | 9月17日 |
| 6回目 | 11月21日 |
| 7回目 | 2009年1月30日 |
| 8回目 | 3月18日 |
| 9回目（予定） | 5月26日 |

事故発生（2003年11月）から今年で5年。当時16歳だった息子の昌樹さんはすでに成人式を迎えました。

た。

「一体いつまで続くのでしょうか。何より悔しいのは、事故の真実をつぶやむやにしたまま、あと半年で刑事事件としての時効を迎えてしまうこと。うちの息子は、当初、『加害者』と扱いされ、一度は保護観察処分まで言い渡されたのです。白バイが嘘をついて自分の過失を被害者にナシつけようとしたのであれば、刑事的にそれなりの罰を受けるべきではあります。しかし、毎回、裁判の準備書面を読むたびに心臓はバクバク、心が折れそうになります。なぜ警察は、事故態様をあそこまで創作するのでしょうか。どこまで真実を捻じ曲げ、組織を守ろうとするのでしょうか。でも、その反面、『負けるものか』と力が湧いてきます」

しばらくは裁判が非公開のため、傍聴支援することはできませんが、進展があつたら、引き続きこの連載の中でお伝えしたいと思います。

一方、高知白バイ事件でも大きな動きがありました。先月号では、獄手紙を取り上げましたが、事故発生からちょうど3年目を迎えた今年3月3日、片岡さん夫妻は、高知県警に対し証拠ねつ造などざんざな捜査を行つたとして、1000万円の損害賠償を求める裁判を起こしたのです。この訴訟における被告は、次の8名です。

1 高知県知事
2 高知県警本部長
3 事故当時の県警本部長
4 事故当時の交通部長